

行きたい大学に行くための受験プラン

特進 ST コース 3 年生の保護者の皆様、日頃より本コースの教育活動にご理解とご協力いただきまして、誠にありがとうございます。今後、生徒・保護者様・我々教員の 3 者でよく相談しながら受験計画を立てていくこととなりますので、今回は一般的な受験プランについてご紹介します。

まず、受験計画を立てるということは、**第 1 志望校だけではなく併願校についても考える**ということです。例えば国公立大学を第 1 志望にする場合は、国公立大学に合格するためにも私立大学の受験が必要であり、第 1 志望を中心にしつつもトータルで計画を立てることが重要です。ただし併願校といっても、受験結果によっては実際に入学することになる大学です。中身をよく調べずに選んだ大学に入学することになると、こんなはずではなかったと後悔することになります。そんなミスマッチを避けるためにも、入学後の生活までイメージし、「**本気で行きたい併願校**」を見つけて欲しいと思います。

併願をするメリットは 3 つあげられます。①合格を確保することで不安を軽減できる。②本番の試験に慣れて実力が発揮しやすくなる。③受験結果に応じて最良の進学先を選べる。1 つも合格を取っていない中で受験を続けることは、受験生にとっては周りが思っている以上に不安・プレッシャーを感じるものです。平常心こそが試験本番で実力を発揮する秘訣ですから、試験の経験を積み、さらに**併願校の合格を確保して自信をつける**ことが必要です。また、当然の話ですが、合格した大学の中からしか進学先は選べません。現役生は秋から学力が伸びるので、高いハードルに挑戦する併願作戦が当たることもあるかもしれません。

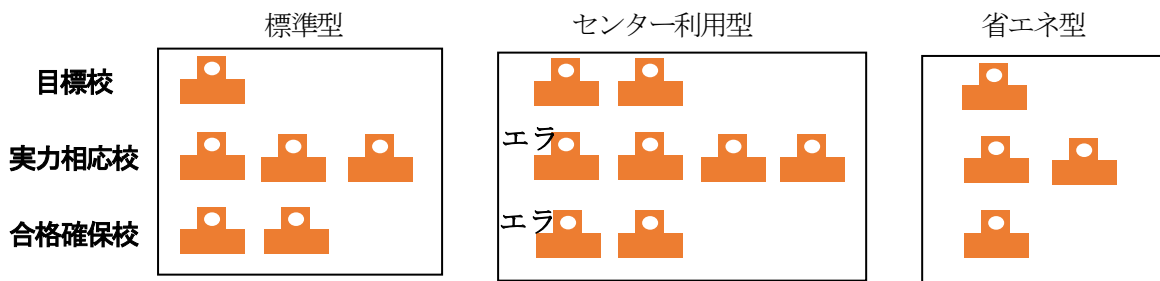
○ 併願に取り入れたい私立大学の入試方式

センター試験利用入試	センター試験の得点結果を私立大が合否判定に用いる。「個別試験＋センター得点」で合否判定するものもある。出願はセンター試験の前が一般的だが、試験後に出願できる場合もある。	メリット ・一回試験を受けるだけで複数の私立大に出願可能 ・各大学の試験会場に遠征する必要がない（個別試験を併用しない場合）
全学部日程入試	全学部が同日に共通の問題を使って一斉に試験を行う。一度の試験で複数の学部・学科に出願できる大学もある。	メリット ・学部別日程と全学部日程で同じ学部・学科を併願できる ・ほかの大学との試験日の重複回避
学外試験会場	大学内の試験会場のほかに、全国の主要都市などに複数の会場を設ける。	メリット ・長距離移動による時間や体力・経済的な負担を軽減

受験校は 5～6 校を目安に！

蛭雪時代によると、全国の受験生にアンケートを取ったところ、全体の出願校数は 3～6 校が 51%、7～10 校が 18%で、**平均は 5.6 校**でした。また、センター試験利用入試の出願数は、2 校が 35%、3 校が 23%で、平均は 2.3 校でした。

「**目標校**」を偏差値＋3～5 程度、合格可能性 30～40%、「**実力相応校**」を偏差値±2 程度、合格可能性 50～70%、「**合格確保校**」を偏差値－3～5 程度、合格可能性 80～90%とすると、「**目標校 1、実力相応校 3、合格確保校 2**」が**基本パターン**となります。これに、センター試験利用入試を追加する、または第 1 志望校対策のために数を絞り込むなど、自分の目的に合わせてカスタマイズするとよいでしょう。ただし、センター試験利用入試はメリットも多いですが、合格のボーダーは高くなります。同じ大学・学部・学科なら一般入試の方が合格は取り易く、センター試験利用入試は合格確保校に使う場合が多いです。



受験機会は確保しつつコストを削減するには？

下記の例のように、受験には多くのお金がかかりますが、お金の都合で妥協するのは後悔のもとです。最後に、受験に関わるお金についての話です。

【 受験料の例 】 国公立大学2 + 私立大4			
センター試験	3教科以上受験・成績通知	18,800円	計 192,800円
国公立大2次試験	17,000円 × 2 =	34,000円	
私立大一般入試	35,000円 × 4 =	140,000円	
【 交通費・宿泊費の例 】 日立から東京の2大学を受験(中1日で3泊4日)			
往復鉄道運賃		約12,000円	計 63,000円
ビジネスホテル	約17,000円 × 3 =	約51,000円	
【 入学手続き費用の例 】 合格した私立大に支払う入学金			
1大学につき		約300,000円	計 300,000円
			合計 555,800円

まずは受験料・交通費等についてです。私立大学の一般入試は35,000円が目安ですが、**センター試験利用入試は15,000円~18,000円と割安で、遠方の試験会場に行くための交通費や宿泊費も不要**となります。また、自分の受験大学が水戸会場で学外試験を実施していれば、これも交通費・宿泊費の軽減になります。中央大学を例にとると、一般入試35,000円、センター併用方式19,000円、センター単独方式15,000円ですが、同一学部に出願する場合は35,000円ですべての入試方式に出願することができますし、統一入試では1出願35,000円ですが、2出願目からは15,000円になります。そのほか、大学によってはインターネット出願だと受験料が安くなる場合もあり、割引のパターンや率は様々ですので、**各大学について調べていきましょう。**

次に、特に気をつけていただきたい、入学手続き時の費用についてです。せっかく大学に合格しても、**指定期日までに手続きをしなければ入学資格は無効**になってしまいます。私立大の場合は、合格発表日の1週間から10日後に手続き締切日が設定されていることが多く、入学手続きの際に30万円前後の入学金等を支払う必要があります。なお、上位志望校に合格して入学を辞退しても**入学金は返還されないケースがほとんど**です。よって、志望順位の低い大学の締切日前に、志望順位のより高い大学の合否がわかるようにプランを組みます。

ただし、私立大の入学手続き締切日は、たいていが国公立大学の合格発表前です。法政大学のセンター試験利用入試C方式など、入学手続き締切日が国公立大の合格発表後というものもありますが、当然ボーダーは高くはなりますし、合格の保証はありません。一般的に国公立大学を第1志望にする場合は、**私立大への入学金支払いの出費を想定しておく**必要があります。

現在の大学入試は多様化・複雑化していますが、お金のことも含めた受験計画について、上記のことに注意して調べていくように指導していきます。さらに今後も様々な情報提供をしていき、これからも**3者でよく相談して進めていきたい**と思っています。よろしくお祈りします。